

## 第10章

### ◎問題10.1

中空正方形の外側、内側の長さをそれぞれ $a_1, a_2$ とすると、断面二次半径 $\kappa$ と細長比 $\eta$ は式(10.10), (10.11)を使うと、 $\kappa = \sqrt{\frac{a_1^2 + a_2^2}{12}}$ ,  $\eta = \frac{l}{\kappa}$ となる。数値を代入し $\kappa = 0.05204$ , さらに $l = 16$ を代入して $\eta = 115.3$ を得る。

### ◎問題10.2

柱にかかる軸圧縮荷重を $P$ とし、安全率を $S$ とする。座屈荷重 $P_\sigma$ は $P_\sigma = SP$ であり、式(10.7)から、 $P_\sigma = C \frac{\pi^2 EI}{l^2}$ , 柱の両端が固定されている場合は、

$$C = 4, I = \frac{\pi d^4}{64}$$

$\therefore SP = C \frac{\pi^3 E d^4}{64 l^2}$  よって、 $d^4 = \frac{64 P S l^2}{C \pi^3 E}$ , したがって $l = 3\text{m}, P = 6\text{kN}, S = 1.5$ ,  $E = 206\text{GPa}$ のとき、 $d = 0.0212\text{m}$

### ◎問題10.3

座屈応力は式  $\sigma_\sigma = C \frac{\pi^2 E}{\eta^2} = C \pi^2 E \left( \frac{\kappa}{l} \right)^2$ を使う。長方形の幅を $b$ , 高さを $h$ , 長方形断面の断面二次係数は2つの軸について計算し、小さいほう $\kappa_{\min}$ を使用する。すなわち、

$$\kappa_{\min} = \frac{b}{2 \cdot 3} \text{をとる。 } P_\sigma = 92.0\text{kN}, \eta = \frac{l}{\kappa} = 139 \text{ となる。}$$

### ◎問題10.4

中実、中空円柱の物理量にそれぞれ添字を以下のようにつける。

中実  $s$  (solid)  $E_s, I_s, l_s, P_s, C_s$

中空  $h$  (hollow)  $E_h, I_h, l_h, P_h, C_h$

$$\text{座屈荷重は式(10.7)より, } P_s = \frac{C_s \pi^2 E_s I_s}{l_s^2}, P_h = \frac{C_h \pi^2 E_h I_h}{l_h^2}$$

両者の比をとると  $\frac{P_s}{P_h} = \frac{C_s}{C_h} \frac{E_s}{E_h} \frac{I_s}{I_h} \frac{l_h^2}{l_s^2}$ , 条件から  $C_s = C_h$ ,  $E_s = E_h$ ,  $l_s = l_h$   
 $\therefore \frac{P_s}{P_h} = \frac{I_s}{I_h}$ ,  $I_s = \frac{\pi d^4}{64}$ ,  $I_h = \frac{\pi (d_2^4 - d_1^4)}{64}$  ここで  $\frac{d_2}{d_1} = a$  とおき, 断面積  
 が等しい条件から,  $\frac{P_s}{P_h} = \frac{a^2 - 1}{a^2 + 1}$  を得る. 次に,  $a = 2$  を代入し,  $\frac{P_s}{P_h} = 0.6$  と  
 なる.

◎問題10.5

軸対称性から,  $z$  軸のみについて考えると  $\kappa_x^2 = \frac{d^2}{16}$  すなわち,  $\kappa_x = \frac{d}{4}$  となり,  
 $z$  軸上の点  $P(0, -\frac{d}{2})$  を通るから第1象限における方程式は,  $\frac{e_x}{\kappa_x^2} x + \frac{e_z}{\kappa_z^2} z + 1$   
 $= 0$ , この方程式は点  $P$  を通るから,  $x, z$  に代入して,  $\frac{16z}{d^2} \left(-\frac{d}{2}\right) + 1 = 0$   
 $\therefore z = \frac{d}{8}$  このことから円形断面の核は, 直径  $\frac{d}{4}$  の円である.

◎問題10.6

任意断面  $x$  における  $M$  は,  $M = \left( Pv + \frac{f_0 l}{2} x - \frac{f_0}{2} x^2 \right)$ , したがってはりの  
 微分方程式から,  $EI \frac{d^2 v}{dx^2} = - \left( Pv + \frac{f_0 l}{2} x - \frac{f_0}{2} x^2 \right)$ ,  $\frac{P}{EI} = \alpha^2$ , とおくと  
 $\frac{d^2 v}{dx^2} + \alpha^2 v + \frac{\alpha^2}{P} \left\{ \frac{f_0}{2} (lx - x^2) \right\}$   
 この一般解は,  
 $v = A \cos \alpha x + B \sin \alpha x + \frac{1}{P} \left( \frac{f_0 x^2}{2} - \frac{f_0 l}{2} x - \frac{f_0 EI}{P} \right)$   
 境界条件から,  $x = 0$  および  $x = l$  で,  $v = 0$  であるから,  
 となり,  $v = \frac{f_0 EI}{P^2} \frac{1 - \cos \alpha l}{\sin \alpha l} \sin \alpha x - \frac{f_0 EI}{P^2} (1 - \cos \alpha x) - \frac{f_0 x}{2P} (l - x)$   
 $x = \frac{l}{2}$  を代入し

$$v = \frac{f_0 EI}{P^2} \left( \frac{1}{\cos \frac{\alpha l}{2}} - 1 - \frac{Pl^2}{8EI} \right), \text{ 上式で } \cos \frac{\alpha l}{2} = 0 \text{ または, } \frac{\alpha l}{2} = \frac{\pi}{2} \text{ のとき,}$$

$\delta \rightarrow \infty$  となる。よって、 $P_{cr} = \frac{\pi^2 EI}{l^2}$  であり、両端支持の座屈荷重の式である。

このことから、座屈荷重には分布荷重の影響がないことがわかる。

### ◎問題10.7

図10.16に示す系を満足する微分方程式は、 $EI \frac{d^2 v}{dx^2} = M_0 + R_0 x - Pv$ ,

$$\frac{P}{EI} = \alpha^2 \text{ とおくと, 一般解は } v = A \sin \alpha x + B \cos \alpha x + \frac{M_0}{P} + \frac{R_0}{P} x$$

境界条件、 $x=0$  で  $v=0$ ,  $M=0$ ,  $x=l$  で  $M=0$  と  $v = \frac{R_0}{k}$  であるから、一般解

に代入し、次式

$$\begin{vmatrix} 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ \sin \alpha l & \cos \alpha l & 1 & 1 - \frac{P}{k} \\ \sin \alpha l & \cos \alpha l & 0 & 0 \end{vmatrix} = 0$$

が得られる。上式から  $\sin \alpha l \left( 1 - \frac{P}{k} \right) = 0$ , したがって  $P = \frac{\pi^2 EI}{l^2}$  または  $P = kl$

このことから、両端回転端の境界条件を持つ柱の座屈問題と同一であることがわかる。

### ◎問題10.8

図10.17において、BDは引張り力 $T$ を受ける。一方、AB、BC、CD、DAは同じ圧縮力 $T$ を受ける。したがって、ABのみ力のつり合いを考えると、

$$P = T \cos \theta + T \cos \theta = 2T \cos \theta = 2T \cos 45^\circ = \sqrt{2} T$$

$$\therefore T = \frac{P}{\sqrt{2}}, \text{ 座屈荷重は } T = \frac{\pi^2 EI}{l^2}, \text{ となり, } P = \frac{\sqrt{2} \pi^2 EI}{l^2} \text{ となる.}$$

◎問題10.9

上端のたわみを  $\delta$  とすると、2本のはりの微分方程式が得られる。

$$EI_1 \frac{d^2 v_1}{dx^2} = p(\delta - v_1), \quad EI_2 \frac{d^2 v_2}{dx^2} = p(\delta - v_2), \quad k_1^2 = \frac{P}{EI_1}, \quad k_2^2 = \frac{P}{EI_2} \text{ とおき,}$$

境界条件から積分定数 A, B は  $A = -B \tan k_1 l$

$$B = \frac{\delta \cos k_2 l_2 \cos k_1 l_1}{\sin k_1 l}$$

となり、 $x = l_2$  で連続であることから、

$$\delta k_2 \sin k_2 l_2 = -A k_1 \sin k_1 l_2 + B k_1 \cos k_1 l$$

積分定数 A, B を代入すると  $\tan k_1 l_1 \tan k_2 l_2 = \frac{k_1}{k_2}$

◎問題10.10

不安定時の A, B 点の変位をそれぞれ  $\delta_A, \delta_B$  とする。棒が受ける力はそれぞれ  $P_A = k_A \delta_A, P_B = k_B \delta_B$ 。力のつり合いから  $P_A = P_B \therefore k_A \delta_A = k_B \delta_B$   
 モーメントのつり合いから、 $P_A l - P(\delta_A + \delta_B) = 0$ 。これらの式から次式が求まる。

$$P = \frac{k_A k_B}{k_A + k_B}$$